

男女がともに支えあい、 ともに取り組む地域防災

自然災害の被害には性別による違いはありませんが、災害時の対応は、男女のニーズの違いに配慮する必要があります。

女性の視点や男女共同参画を踏まえた地域での防災・減災に取り組むためには、男女がともに支えあいながら、ともに取り組むことが重要であると考えています。

東日本大震災の避難所ではこんな課題がありました。



大阪市地域防災計画

大阪市地域防災計画では、次のように記載されています。

防災活動の実施にあたっては、男女共同参画や高齢者や障がい者、ボランティア団体等、多様な主体の参画を促進するとともに、要配慮者に配慮するように努めること。

特に、避難場所・避難所の管理については、避難所の運営における男女共同参画を推進するとともに、高齢者、障がい者、男女のニーズの違い等多様な視点に配慮するものとする。

また、女性専用の物干し場、更衣室、授乳室の設置や生理用品、女性用下着の女性による配布、巡回警備や防犯ブザーの配付等による避難所における安全性の確保など、女性や子育て家庭のニーズに配慮した避難所の運営に努めること。

避難所運営のヒント

災害時、避難所で生活することになった時は、男女がともに支えあってお互いが気持ちよく過ごすことができるよう工夫する必要があります。



安全な環境の整備

女性や子どもに対する暴力等の予防のため、防犯ブザーやホイッスルの携帯、街灯や夜間照明等の工夫が重要です。安全パトロールも効果的です。



男女のニーズの違いに配慮

災害から受ける影響は、男女によって違います。男女のニーズの違いや子育て・家庭等のニーズ、プライバシー確保などに十分配慮した対応が必要です。



男女のリーダーの配置

男女のリーダーを配置することで双方のニーズが反映できます。

避難所は、家事・育児などの生活の場でありながら、男性が中心の運営になりがちです。避難所運営に女性の意見が反映されることが重要です。



女性用更衣室・授乳室・物干し場

周りを気にせずに、更衣や授乳、洗濯干しができることは、安全面・衛生面の観点でも重要です。




日ごろから心がけておきましょう！

- ・日ごろから地域活動に参加すると、地域とのつながりが生まれます。
- ・地域の防災訓練やワークショップでは、男女それぞれの視点で話し合い、お互いのニーズを理解しましょう。
- ・女性も男性も防災の担い手です。地域のなかで、いろいろな役割を担っていきましょう。
- ・災害時に、女性や子育て家庭などに必要な物資を備えておきましょう。



大阪市民政局ダイバーシティ推進室男女共同参画課 :06 6208 9156 FAX:06 6202 7073

大阪市立男女共同参画センター中央館 指定管理者:大阪市男女共同参画推進事業体

(代表:  大阪市男女いきいき財団
正式名称 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会